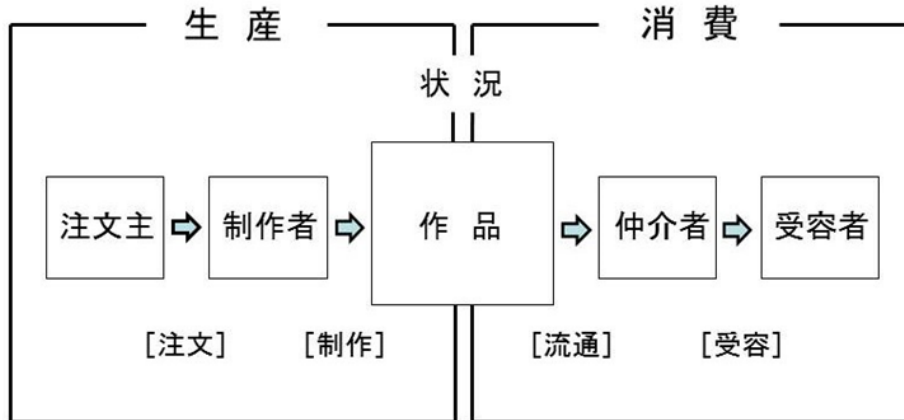


令和4年度事業計画書
(自令和4年4月1日至令和5年3月31日)

公益目的事業 I

一般の受容者をはじめとして、制作者や、研究者・学芸員・ギャラリスト等の文化仲介者の活動を支援することによって、美術を中心とした視覚文化の振興を図るために、次の事業を行う。



視覚文化の構造

1. 機関誌『須田記念 視覚の現場』の発行

機関誌『須田記念 視覚の現場』を年間2冊発行し、全国の主要図書館、美術館、美術系大学図書館、友の会会員などに無料で配布する。

2. 視覚文化に関する調査研究

視覚文化研究会で、「視覚文化における写真の役割」と「東アジア絵画の近代」をテーマとする調査研究を行い、その成果を次年度の『美術フォーラム21』に掲載してフォーラム会員に無料で配布する準備を行う。

3. 視覚文化連続講座の開講

「視覚文化に分け入る」という統一テーマのもとで、各界の専門家8名による連続講座を開講し、広く受講者を募集する。

4. 視覚文化ワークショップの開催

本財団が委嘱した研究員5名をファシリテーターとして、制作者や仲介者が、領域横断的に意見を交換するワークショップを5回開催し、ハイブリッド方式で公開する。

5. 展覧会の支援

各地の美術館・博物館等が企画する展覧会かつ／あるいは新進アーティストが企画するギャラリー等での展覧会に対して開催経費の一部を支援するために、10月に公募を行う。

6. 展覧会の企画

本財団が企画した次の2つの展覧会について、各地の美術館等と協力して実行委員会を組織し、巡回展を開催する（1つの展覧会を開催するためには、通常、3年程度の準備期間を要する）。

(1) 「美術と風土——アーティストが触れた伊那谷」展の開催（共催）

会場：飯田市美術博物館・辰野美術館・碧南市藤井達吉現代美術館・白沙村荘橋本関雪記念館・豊中市文化芸術センター

会期：令和5年3月より10月まで巡回予定

(2) 「生誕130年・没後60年を越えて——須田国太郎展」の開催（協賛）

会場：世田谷美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、西宮市大谷記念美術館、蘭島閣美術館、大分市美術館

会期：令和5年10月から令和6年8月まで巡回予定